

シドニー大学に進学したUNSW Kyoto 4期生から、シドニーでの大学生活についてリアルな声が届きました！  
学部はBachelor of Artsで、**Financial Economics**（金融経済学）と**Banking**（銀行学）のダブルメジャーを専攻しています。

## SYDNEY 都市と自然、そして多文化が共存する街シドニーでの生活体験

シドニーでの生活は日本にいた頃と比べて日常の過ごし方や時間流れが大きく変わりました。  
気が付けば、予定に追われるよりもその日の気分で動く時間が増えています。

普段の生活では「Opalカード」という交通系ICカードを使いバスや路面電車に乗ることが多いです。特に週末は、1日に支払う交通費に「上限額」が設定されています。つまりバスや電車、フェリー等に何度乗っても、その上限金額に達した後はそれ以上お金がかからない仕組みです。休日はフェリーに揺られてビーチへ行き、バーベキューをしたり海沿いを歩いたり、周辺のお店で美味しいご飯を食べたりして過ごしています。中でもCoogee Beachの近くにはたくさんのお店やレストランがあり無料のテニスコートもあります。私はよく友達とラケットを持ってそのビーチへ遊びに行きます。何気ない時間がとても贅沢に感じられる生活です。



### UNSW Kyoto 4期生

進学先：シドニー大学

2025年にシドニー大学  
Bachelor of Artsへ  
進学されました。



## CULTURE 国際交流と文化体験

大学では交流イベントや季節の行事が活発に行われているため**多国籍の学生**と自然に関わる機会が多くあります。

特に印象に残っているのはカラオケで、勇気を出して参加したことで音楽を通じた一体感が生まれました。言語や文化の違いを越えてつながるためには**自ら一歩踏み出す姿勢**が大切だと、この経験を通して学びました。



## STUDY 学習環境と図書館の活用

大学の講義は内容も専門的で予習・復習が必須です。特に統計学や人文社会科学では苦戦しましたが、大学の図書館を積極的に活用することで、学習習慣を確立することができました。シドニー大学のFisher Libraryの上層階は静かな環境が整っており、集中して学習に集中することができます。自分に合った学習環境を見つけることの重要性を学びました。

## BIRTHDAY 食文化を実感した誕生日

オーストラリアで「食文化」を最も感じたのは20歳の誕生日でした。友人とレストランで食事をしていると1メートルはあろうかというピザが提供され、大人数でシェアをする前提という食文化の違いを実感しました。さらに友人が用意してくれていたサプライズのバースデープレートに心から感動しました。



特に印象的だったのは、食事後に行われた「Hip Hip Hooray」というオーストラリアの習慣です。掛け声に合わせて周囲の人々が声をそろえ、年齢の数だけ机を叩いて祝福してくれました。その場にいた全員が一体となって祝ってくれたことに、文化の温かさを強く感じました。この経験を通して、文化とは特別な行事だけでなく、日常の何気ない場面にこそ現れるものだ気づきました。

## RESIDENCE 学生寮の生活環境について

シドニーではスタジオタイプの学生寮に滞在しています。



部屋はキッチンやシャワーなどが一室に備わった、コンパクトな空間です。寮内にはジム、ランドリーそして音楽室があり、私はピアノを弾くためによく利用しています。共有キッチンや交流スペース等も充実しています。シドニー大学へは寮から**無料のシャトルバス**があるので、10分ほどで通学することが可能です。

## SUPPORT 物価の高さと学生支援制度

シドニーは物価が高く食料品は日本の約2倍に感じられます。そのため自炊中心の生活を送り計画的な家計管理が必要です。その中で大きな支えとなったのが、学内の**無料朝食・生活用品の提供**です。こうした制度は留学生にとって経済的にも精神的にも心強いサポートとなっています。海外大学ならではの**学生支援の充実**を実感しています。